

国際審判員 須黒祥子氏のアテネ



須黒祥子氏
すぐろしょうこ

《プロフィール》

1971(昭46年)生まれ
東京都品川区出身
日本体育大学体育学部卒
都立江東商業高校教諭k~
(現)都立つばさ総合高校教諭

1995年 日本バスケットボール
協会公認審判員

2000年 A級審判員

2001年 AA級審判員

2003年 F I F A (国際バスケット
ボール連盟) 審判員

《主な審判歴》

インターハイ
ウィンターカップ・
国民体育大会
ゼロックスカップ・
インカレ
Wリーグ
オールジャパン

キリンカップ2004
日本代表-ブルガリア代表
2004アテネオリンピック
予選リーグ~第7位決定戦

— アテネオリンピックの審判、大変ご苦労様でした。バスケットの日本選手団は8月8日に出発しましたが、一緒に行かれたのですか？



AΘΗΝΑ 2004



「いいえ、4日ほど遅れて出発し、現地へは一人で行きました。アテネまでは直行便がなく途中乗り継ぎがあったりして少レ心細いこともありましたが、なんとかアテネにたどり着くことができました。

アテネの空港に到着してから宿舎に行くオリンピック専用バスがなかなか来なくて、2時間以上待たされました。

— 現地での出迎えや案内などはなかったのでしょうか、宿舎は選手村でしたか？

「出迎えなどはありませんでした。宿舎はナショナルバンクセンターという銀行研修所の施設で、各国の審判が各自そこに集合しました。」

— 集まった審判の人数は？

「帯同審判が男女合わせた参加国24チームで24名、F I B Aノミネートのニュートラル審判が6名、全部で30名の審判団でした。そのうち女性審判は6名で、アメリカ、ブラジル、韓国、日本からは帯同で、フランス、カナダからはニュートラルでそれぞれ来ていましたが、たまたま女性審判のなかでは私が最年少でした。」

— 大会前にルールの確認とか、FIBAから吹く上での指示や打ち合わせなどはありましたか？

「みんな国際審判なので特にルールの確認などはありませんでしたが、約束事などの注意事項は大会前の全体会議で話がありました。会議の主役はコトレバさんというFIBAの審判事務局長をやっている方で、厳しいですがいつも全体的に観てくれる紳士的な方です。」

— 審判割り当てはどのような方法で連絡がありましたか、また、割り当てゲーム数は各審判とも均等でしたか？

「宿舎の一角にレフリーラウンジがあって、審判の誰でもが自由に出入りできるようになっていて、そこに籠のような書類棚があり、毎日夜の8時から10時くらいの間には翌日の割り当てについての書類が置かれます。各審判ともそれを見て自分の割り当てを確認するシステムになっていました。翌日に割り当てがあるのにたまたまその場にいなかった人には、みんなで手分けしてそれぞれの個室へ書類を配布して回りました。割り当てゲーム数は多い方で6ゲームくらい、少ない人では2ゲームくらいですね。私は全部で女子4ゲームでした。」

— 女性審判は女子のゲームだけでしたか？

「原則的には女性審判は女子のゲームだけでしたが、フランスから来たシャンタレさんという方だけは男子のゲームも吹いていました。この方は2年前の女子世界選手権のファイナルゲームを吹いた方で、毅然とした態度で判定も素晴らしい審判でした。日本とギリシャのゲームを吹いた方で、今回も女子のファイナルを吹いていましたね。」

— 大会期間中審判の割り当てがないときはどのように過ごされましたか？ また、日本チームとの接触などはあったのでしょうか？

「自分に割り当てがないときは、ゲームを見て他国の審判の判定などを勉強したりしていました。バスケットの会場は1箇所、予選リーグを含めて男子のゲームと女子のゲームが1日置きに開催されていた関係で、女子のゲームがある日に割り当てがないと2日間も空いてしまい、寂しい思いをしたこともあります。割り当ての発表が前日の夜にならないとわかりませんので、先行き、もう割り当てがないのではないのかという不安に駆られたこともありました。各審判ともチームとは隔離された状況に置かれていましたので、自分の国のチームとは通路で会ったときに声を掛け合う程度で、日本のゲームはすべて観戦しましたが、接触することはあまりできませんでした。それだけに審判同志のコミュニケーションはかなりありましたね。特にフランスとカナダのニュートラル審判の方から大変気にかけていただき、いろいろ教えてもらったりお話ができたりして良かったです。」

— 日本対ギリシャのゲームを観戦されて判定をどう感じられましたか？



「会場がギリシャ色という感じで、観客のうち日本の応援団はどこにいるかわからないほどでした。」

判定について現場で見ている限りでは、どちらに有利ということもなく公平に判定されたと思いましたが、帰ってきてからビデオを見てみると、一部日本が不利に見えた判定があったので驚いています。現場で見るとテレビでは随分と違うものだなという感を受けました。ゲームの流れを含めて、ギリシャはホームコートという有利さと観客の応援に勢いづいていたと言っていいでしょう。」

— テレビで見る限りバスケットの観客はあまり多くなかったようですが？

「そんなに多くはなかったと思います。やはり男子のゲームに人気がありました。特にアメリカが絡むゲームは男女共に人気があったようです。」

— ゲームを吹いた感想は如何ですか？

「ゲーム中にトラブルが起きないよう細心の注意を払いました。ゲーム全体の管理という点では、ベンチを含めたゲームコントロールが非常に重要だということも感じました。チームは各国とも審判の判定に合わせてプレイをしているようで、トラブルはありませんでしたが、少しでも気を抜くと大変なことになりそうな感じでした。例えばちょっとした肘のぶつかりなどを見逃すと、それに対して後でやり返すといったようなプレイがすぐに起きます。それが更にエスカレートして、コート上で大きなトラブルにつながるということは承知していましたので、そのあたりは最大限神経を使いました。おかげさまでトラブルもなく吹き終わられてホッとしています。」

— ゲーム中相手審判とのコミュニケーションは？

「お互いに国際審判ですので非常にやりやすかったですね。相手に対して協力することは多くあっても、判定が食い違うようなことは全くありませんでした。」



ゲーム前に細かなことまで打ち合わせしなくても、ゲーム中はそれぞれが協力してそのゲームをしつかりと管理するという点は素晴らしいと思いました。」

— 審判のユニフォームが今までのグレイ色から変わっていて結構スマートに見えましたが。」

「現地で黒と白のユニフォームを支給されそれを着用しました。今後FIBAのゲームではあのユニフォームになるようです。ルール上で審判のユニフォームが変わるということは聞きませんでしたが、今回のものについては現地での評判もなかなか良かったようです。」

— ルールのことを少しお伺いします。ボールが7号ボールだったようですが、国内で女子はすでに6号ボールになっていますし、Wリーグでは新しいルールも適用されているようですが、オリンピックでは？

「ルールはFIBA2003年ルールによって行われました。したがってボールは男女とも7号ボールでした。来年度から適用される新しいルールを先取りしている国の審判がいて、最初のゲームに若干混乱もありましたが、開始日の夜ミーティングがあつて徹底され、それからはスムーズに運営されました。日本の国内では女子のボールはすでに6号ボールになっていますし、9月から開催されたWリーグでは来年度から適用される新しいルールを採用しています。主な変更点としては、ゲーム開始のとき最初に攻撃するバスケットをオフィシャル席の左側チームが選択できること、ジャンプボールは前半の開始時だけ行うこと、選手の交代ができる時期が変わることなどです。」

— この夏伺ったときに英語を勉強されていると言っておられましたが役に立ちましたが？

「お金と時間はかかりましたが、それ以上に役立ちました。会話はすべて英語ですし、コート上は勿論のこと、コートを離れてから審判同志のコミュニケーションにも大変役立ちました。」

割り当てのない日などもあって、時間に余裕があるときなど仲間と話し合ったりして友達をふやすことなどもできました。中には英語がわからない国の審判もいて、お互いのコミュニケーションがとれず、随分と苦勞している姿を見ましたので、一生懸命英語を勉強して行って本当に良かったと思っています。

— 英語もさることながら今回の経験が人生の上で宝物になったのではないですか？

「その通りです。国内でも審判をする機会は数多くありますが、それ以上に自分としては勉強の上積みできたと思っています。

出かける前に今まで海外に出かけた多くの先輩から経験談をお聞きしましたが、話だけではよく分からなかったことも多く、自分がその場その場を経験して初めて理解できたことも数え切れないほどです。特に英語での会話に不自由しなかったのが大きいです。

— そういう点では苦勞もされたと思いますが？

「それ以上に楽しく行ってこられましたすべてがとても楽しかったですね。

大会が終わっても帰りたくない気分が駆られたぐらいですし、帰りもチームとは別で一人でしたが、飛行機の乗り継ぎもそう苦にはなりませんでした。

それに飛行機は何時間乗っていても平気な方で、飛び立ったらすぐに寝られちゃうくらいですので・・・。

— 今回、須黒さんがオリンピックに行ったのを機会に、日本でも女性の審判がもっと増えるといいですね？

「女性審判が増えて、国内で女性のゲームはすべて

女性でまかなえるようになったらもっといいと思っています。私自身もフランスのシャンタレさんのように、男子のゲームも一人前に吹けるように頑張りたいと思っています。また今回の経験をできるだけ多くの審判に伝えて、少しでもみなさんのお役に立つことができれば幸いと思っています。

— 最近女性の進展には目覚ましいものがあり、今回、須黒さんのオリンピック行きは国際的にも日本の女性審判をアピールした素晴らしいことだったと思います。今後と全体のお手本としても、さらにを前進を続けていただきたいと思います。

本日は大変ありがとうございました。



【 国際審判 MEMO 】

日本バスケットボール協会認定の公認審判員は全国で約 6000 人。国内最高の AA 級のうち、35 歳以下で英語の会話力や技能などが認められると、国際審判の受験資格が得られる。

国際審判になるには、F I B A が主催する試験（ルール＋技能）に合格しなければならないが、試験問題や会話はすべて英語で実施される。現在、日本人の国際審判員は男女合計 24 人。